

4つの認知症について 種類と初期症状

ついうっかり約束の時間や物をどこにしまったか忘れたりすることは、誰しもあるものです。これは単なる物忘れです。認知症は約束したことを、物をしてしまったこと自体を忘れてしまい、本人に忘れたという自覚がありません。そのため、物がなくなつたことを「盗られた」と思い込み、大騒ぎになることもあります(物盗られ妄想)。

このように脳の機能が低下して、日常生活に支障をきたすようになった状態を認知症と言います。記憶力や判断力だけでなく、進行すると身体機能も悪くなって寝たきりになります。認知症にはいろいろな種類がありますが、頻度の高いものを簡単に説明したいと思います。

①アルツハイマー型認知症 (約60%)

脳にアミロイドβという物質が沈

着して、神経細胞の障害が起こります。物忘れで発症することが多く、新しいことを覚えられなくなります(短期記憶障害)。進行すると日付がわからなくなり、金銭管理や家事ができなくなります。頭部CTやMRI検査では海馬の萎縮がみられます(初期には目立たないこともあります)。根治療法はまだありませんが、進行を遅らせる薬があります。

②血管性認知症 (約20%)

脳梗塞や脳出血が原因となります。たとえば病変が小さくても、再発を繰り返すことよって認知症になることもあります。意欲低下が目立ち、脳梗塞(脳出血)でみられるような歩行障害や言語障害、嚥下障害をしばしば伴います。脳梗塞(脳出血)を予防することで認知症が進行しないようにします。

③レビー小体型認知症 (約10%)

脳にαシヌクレインという物質が沈着して、神経細胞の障害が起こります。幻視(存在しないのに虫や人物がみえたりする)が特徴的な症状です。ほかに嗅覚低下、睡眠中の異常行動(夢をみているときに大声を出す、体を激しく動かす)、パーキンソン症状(動作が鈍くなる、小刻み歩行)などがあります。検査では後頭葉に障害がみられます。根治療法はまだありませんが、進行を遅らせる薬があります。

④前頭側頭葉変性症 (まれ)

人格や行動の変化を特徴とするタイプ(堂々と万引きする、関心がなくなると勝手に出ていく、毎日同じものを食べるなど)、言語がしゃべれ

なくなるタイプ、言葉の意味がわからなくなるタイプなどあります。

認知症には様々な種類があつて初期症状が異なります。物忘れで発症するとは限りませんので注意してください。いずれの種類でも、進行して脳障害が広範囲に及べば、知的機能は廃絶し、寝たきりになってしまいます。気になる症状があつたら、主治医に相談して早めに専門医を受診してください。



社会医療法人
製鉄記念八幡病院
脳卒中・神経センター長
脳神経内科部長

荒川 修治先生

資格

日本内科学会総合内科専門医・指導医 / 日本神経学会神経内科専門医 / 日本脳卒中学会脳卒中専門医 / 日本認知症学会専門医 / 日本老年医学会老年病専門医・指導医 など

社会医療法人
製鉄記念八幡病院
北九州市八幡東区
春の町1丁目1-1
TEL 093-672-3176

